

東青地域県民局地域農林水産部
農業普及振興室

〒030-0861
青森市長島 2-10-3 青森フコク生命ビル 6階
TEL: 017-734-9961 FAX: 017-734-8305

外ヶ浜町で第26回青森県農業青年交流大会を開催しました！

例年、県内の若手農業者が一堂に会し、研修や交流を行う青森県農業青年交流大会。今年は外ヶ浜町のおぐにふるさと体験館で令和4年6月17日に「泰然自若～コロナに負けるな～」をテーマに行われました。おとし、昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を見送らざるを得ませんでした。コロナ禍でも県内の若手農業者の交流の場を設けたいとの思いで、東青地区4Hクラブ員が話し合いを重ね、例年は1泊2日で開催していた大会を感染リスク低減のため日帰りにするなど感染対策を十分に行った上で開催につなげました。

本大会では、外ヶ浜町の6つの集落営農法人が出資して設立した広域連携法人「(株)アグライズ外ヶ浜」の取組紹介や、青森地方気象台から「農家のための天気の話」についての講演のほか、ドローンや農業用無人車のスマート農業体験会などが催され、参加者は興味津々に質問をしていました。



(株)アグライズ外ヶ浜の取組紹介



農家カレーづくり

お昼ごはんは、東青地区のりんご、いまべつ牛、陸奥湾ほたて、ミニトマトなどのほか、県内各クラブが持ち寄ったながいも、にんにくなど自慢の食材をふんだんに使った農家カレーを作り、外ヶ浜町産「まっしぐら」と共にいただきました。普段とは違う食材のカレーづくりでしたが、クラブ員が創意工夫し、非常に美味しいと好評でした。

感染症拡大予防のため今年も延期するか、開催するかをクラブ員で何度も話し合い、コロナ禍で途絶えていた県内各地の若手農業者との交流を実現できたことは大きな意味があると思います。東青地区4Hクラブでは、今後もアイデアを出し合って必要な知識を学ぶための研修会やモチベーションアップのためのイベントを開催し、個々の資質向上や仲間づくりに取り組んでいきます。

4Hクラブのご紹介

東青地区4Hクラブ(東青地区農村青少年クラブ)では、青森市・平内町・今別町・蓬田村・外ヶ浜町の20代～40代の農業青年が、生産技術の研鑽と親睦を回ることを目的に活動しています。このようなクラブは、青森県内で11組織、全国で約850組織が活動しています。

会員募集

農業仲間ができる！
地域の若手農家はもちろん、県や全国の交流会や大会があり、県内や全国の農業者とつながれます！

経営をレベルアップできる！
各自が課題を設定し、解決方法を探るプロジェクト活動を行っています。普及指導員(県職員)がアドバイスします。

勉強できる！
農業技術、経営、天気、販売などなど。気になることがあれば、ぜひ提案してください。みんなで学びましょう！

お試し入会も大歓迎！

やりたいことをみんなでゆる～くやっています。
現在、青森市8名、外ヶ浜町2名の会員が活動中！

4Hクラブで人生が変わるかも？

クラブ員紹介 (YouTube)

石岡さん(青森市)	奈良さん(蓬田村)	小林さん(外ヶ浜町)

りよくはくしゅうこうしやう

飯塚久雄氏が緑白綬有功章（農事功労者）を受章

令和4年11月17日に開催された公益社団法人大日本農会が主催する令和4年度第106回農事功績者表彰式（東京都赤坂）において、青森市高田の飯塚久雄さんが、総裁秋篠宮皇嗣殿下より、緑白綬有功章を授与されました。

農事功績者表彰は、農業の改良振興を図ること等を目的に明治27年に創始され、緑白綬有功章は農事改良や地域の農業発展に貢献した農業者等の功績を称えるものです。

飯塚さんは東青地域の水稻栽培のリーダーとして、借地と直播栽培などの省力技術の導入による規模拡大、育苗用ハウスを活用したシャインマスカット栽培等に取り組み、通年雇用による大規模経営を実践していることや、地域のわら焼きによる煙害防止への取組、青森県営農大学の学生等の受入れといった担い手育成、関係機関やメーカーと連携した直播栽培等の新技術普及に尽力する姿勢が高く評価されたものです。

12月19日に県庁を訪れ、受章を報告した飯塚さんは「この受章を契機に、これからも研鑽に励むとともに、後進の指導に力をいれたい。」と話していました。



飯塚久雄氏



受章を報告した飯塚氏

JA青森女性部南地域女性部が「女性のチャレンジ賞」を受賞

JA青森女性部南地域女性部（部長：安田八重子氏）が令和4年度青森県いきいき男女共同参画社会づくり表彰女性のチャレンジ賞を受賞しました。

同女性部は、女性農業者を対象としたりんごの剪定や摘果の講習会を開催し、これらの技術力向上にチャレンジすることで、りんご栽培に積極的に関わり、意欲的に経営参画する女性の担い手育成に努めています。

また、冬期間に地域の高齢者を対象とした交流サロンを開催するなど、地域に密着した活動を通して、農村女性活躍の場の広がり大きく貢献していることが評価され、今回の受賞につながりました。



表彰状を授与される安田部長(右)

畑で家族が倒れた！
機械に巻き込まれて大量に出血している！
はしごから落ちて意識がない！

こんな時あなたは何かができますか？

赤十字救急法講習会

参加無料

令和5年1月13日(金)
 午後1:30～3:30

日本赤十字社青森県支部
 5階大会議室
 (青森市長島1-3-1)

傷病者の観察方法
 急病の手当
 けがの手当
 心肺蘇生法 など

駐車場は県庁北棟地下の駐車場(無料)をご利用ください。
 駐車券を会場にお持ちください。

服装
 動きやすい服装

4Hクラブ
ランチ会

参加費
500円

先着10名

1/20 (金)

11:00～14:00
 (青森市浪岡大学大釈迦前田61-13)

11:00に創カフェにお集まりください

好きな具材でベーグルサンドづくり (コッペパンサンドもつくれます)
 創カフェのコーヒー付き (コーヒー以外の飲み物もいろいろ！)

pommiエル店主のお話

清水亜希子さん

りんご農家の視点と東京の飲食業の視点

調理場見学

仕事を楽しくヒント

お客様が喜ぶ商品・農産物とは？

おしゃべり会

自由にお話ししましょう！

対象 若手農業者 (おおむね20～30代)

持ち物 三角巾

※マスク着用、手指消毒など新型コロナウイルス感染対策に御協力をお願いします。

「東青地域の食」の技術を伝える

若手女性農業者等に、郷土料理の技術や地域の特色ある加工品づくりについて伝え、今後の生活や起業活動などに活かしていただくことをねらいとし、「東青地域の食」技術伝承研修会を2回開催しました。

1回目は、10月25日、JA青森げんき畑の佐藤智子氏と徳差知子氏を講師に、郷土料理の「赤飯」と「氷頭なます」の調理実習を行いました。小豆の煮方、もち米の蒸し加減、鮭の頭の処理方法などについて、ていねいに指導してもらいました。

2回目は、11月22日、蓬田トマト加工グループの藤田かち子氏を講師に、冷凍トマトを原料とした加工品づくりの現場見学等を行いました。トマトピューレの加工作業の見学のほか、原料の下処理と保存方法、商品化している各加工品の工程の流れ、組織の活動状況などについて、詳しく説明してもらい、最後には加工品を試食しました。

どちらの研修会も、参加者達は熱心に学び、「料理のコツがわかったので、早速挑戦したい」、「大量に出る規格外のトマトやミニトマトの加工を考える参考になった」などと語っていました。



赤飯の蒸し加減を学ぶ



トマト加工の現場を見学

「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチーム活動



「はれわたり」現地検討会



「青天の霹靂」現地検討会

「青天の霹靂」の良食味・高品質米生産を推進するため、指導機関・団体で組織する「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチームは、生産者に対してきめ細かな栽培指導を実施するとともに、令和5年度から本格デビューする「はれわたり」の良食味・高品質栽培を支援しています。

プロジェクトチームの活動は、「青天の霹靂」では、営農指導員等の追肥指導のため、生育前半の状況の共有を図る現地検討会を開催したり、生産者に対して、栽培講習会や追肥指導などを行っています。年度末には各生産者の栽培履歴を基に、個別にカルテを作成し、来年度の栽培方針などのアドバイスをを行い、良食味・高品質米の生産を推進しています。また、「はれわたり」では、指導機関・団体を対象に、東青地域での生育状況の共有のため現地講習会を開催したり、栽培講習会等で生産者にも栽培の特性や生育状況について周知しています。

高病原性鳥インフルエンザの疑いのある異常家きんを発見した場合は、早期通報をお願いします！

今シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生は、令和5年1月10日時点で県内2事例を含む23道県で57事例発生しており、現在も油断できない状況が続いています。

急激な死亡羽数の増加や急激な産卵率の低下など、本病の特定症状を呈している家きんを発見した場合は、直ちに青森家畜保健衛生所（017-764-1744）にご連絡ください。

農福連携の取組について

東青地域では、平成26年度から障がい者が農作業に従事する「農福連携」の取組を進めています。

今年度は、「チャレンジ農福」を青森農業協同組合の協力により実施し、取組を広く知ってもらうための活動を行っています。

「チャレンジ農福」では、青森市浪岡地区のりんご農家と福祉事業所をマッチングし、9月から枝拾い、摘葉作業などを実施しました。福祉事業所の指導者1名と障がい者2～3名がチームとなり、りんご園に出かけ、農家が依頼した仕事を行いました。

10月20日に実施した現地見学会では、摘葉作業の様子を見学し、作業の難易度やはたらき方についての情報交換を行いました。まだ取り組んだことのない事業所でも、作業方法を覚え習熟することで、人手が必要で比較的難しい摘果、摘葉、収穫の作業にも対応していくことが期待されました。

農業普及振興室では、農福連携の取組を希望する福祉事業所の相談に対応するとともに、作業依頼を希望する農家とのマッチングを支援していくこととしています。



農福連携によるりんご作業現地見学会

農作業体験で「食」の大切さを学ぶ！～学校田での稲作体験学習～



刈取りした稲を紐で束ねる児童



足踏み脱穀機に挑戦！

平内町立小湊小学校では、毎年、約5アールの学校田で、地域農家や行政の協力のもと、児童が稲作体験学習を行っています。

今年は4～6年生120名が、昔ながらの道具を使って6月1日（水）に田植え体験、9月29日（木）に稲刈り体験、また、10月26日（水）には、5年生が足踏み式脱穀機や動力脱穀機（ハーベスタ）を使用した脱穀体験を行いました。

農業普及振興室では苗の植え方や鎌の使い方、脱穀機を使う際の注意点などについて説明しました。

児童からは、「稲刈りは思ったより簡単だったけど、束ねるのが難しかった」、「楽しかった。次はもっと上手に作業したい」などという感想がありました。

また、今年はコロナ禍で開催を見送っていたもちつき集会在3年ぶりに開催され、子ども達は自分たちが育てたお米をきなこもちにして味わいました。

東青地域就農に役立つ農業総合セミナー開催のお知らせ

新規就農者や就農希望者等を対象に、農業経営者として必要となる経営に関する知識、実現可能な営農計画や生活設計の立案方法等を学ぶセミナーを下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

<開催日時>

○令和5年1月19日（木）10:00～16:00

○令和5年1月25日（水）10:00～16:00

※両日共に同じ内容です。いずれかの日にちにご参加ください。

<開催場所>青森県観光物産館アスパム 9階「津軽」

<申込み先>経営・担い手班 対馬まで

令和5年10月から消費税インボイス制度がはじまります！

「インボイス」とは、売手が買手に対して、正確な適用税率や消費税額等を伝えるもので、売手（インボイス発行事業者）は、買手の求めに応じ、インボイスを交付しなければなりません。

インボイス発行事業者となるためには、原則、令和5年3月31日までに登録申請が必要です。詳しくは税務署等にお問い合わせください。